

「なんとなく」が生んだ夢

人文学部人文学科西洋言語文化学プログラム 井上大輝

私は2016年9月から2017年5月までの9か月間、フランスのナント大学 *Université de Nantes* に語学留学をしました。留学の概要および自身の経験を踏まえ、みなさんの役に立てればと思います。

そもそも私が留学を志望した理由の一つに、幼い頃からの海外への憧れが強かったことがあります。私の家族は私が中学に入学するまでホームステイを受け入れており、このときに出会った留学生に影響を受け、国境を越えて言語を通じてコミュニケーションを行える素晴らしさに気づきました。そこでなぜ留学先にフランスがくるのかと思われるかもしれませんが、それは実に単純な理由でした。私の友人に小学生のころ、家族旅行でパリを訪れた写真を見せてもらったとき、幼い私にとってあまりに新鮮で、衝撃的なものでした。日本では見たことのない風景、建築様式、欧米人。さらに憧れは強まります。そして、ますます「ヨーロッパ大陸という未知の世界に足を踏み出してみたい。」誰もが一度は抱くフランス・パリへの憧れから、大学入学時に興味本位で第二外国語にフランス語を選びました。そしてフランス語を学ぶにつれて仏語特有の音の響きにひかれ、現地で語学力を磨き、自分を魅了したフランス語を何かしらの形で今後の人生に活かしたいと思い、留学を決意しました。

新潟大学はナント大学の他に、人文学部間でボルドー第三大学とも交流協定を結んでいます。私には2つの選択肢がありましたが、ナント大学を選んだのは、2016年2月に3週間実施されたナント大学研修旅行に参加したことから、多くの知り合いが留学先にいることが自分にとっては都合がよかったからです。また、おそらく先輩方が書かれているかと思いますが、日本人留学生のサポートを目的とする無償支援団体「なんとなくナント」がナントに存在するからです。団体名にダジャレを入れるほど日本語が達者（日本に25年住んでいた）な会長や、新潟大学での留学経験を持つ方たちなどが私たちを支援してくださいます。留学先での手間のかかる手続きだけでなく、生活必需品などの配給をしてくださり、何から何までお世話になりました。

次に、留学先での生活についてですが、ナント大学に留学する学生は、ナント大学附属の語学学校 *I-FLE* で学習を行います。この学校はフランス語学習を目的とした生徒が集まっているため、生徒にフランス人はいません。クラスは、1セメスター初めのテストによって *A1, A2, B1, B2, C1, C2* の6段階のレベルに分けられ、人数が多い場合は、レベルの中でもいくつかのクラスに分けられますが、学習する内容はレベルによってすべて共通しています。レベルは *A1* から順に上がり、*A* は初級、*B* は中級、*C* は上級レベルになります。私は1セメスター初めのテストで *B1* と評価されましたが、2週間授業を受け、語学力上達のために最も大切になければならない基礎力が欠けていると判断し、*A2* にクラスを変更しました。私のように、テストによって決められたレベルのクラスが自分に合わない場合は最初

の2週間のうちに変更することが可能です。2セメスターはB1のクラスを受講しました。授業は指定された教科書を使って、文法・読解力・聞き取り力・会話力・書き取り力向上を中心として行われ、音韻論の授業が週に1度行われます。レベルが上がるにしたがってこれらにプラスして歴史・地理の授業、選択授業として食文化(B1)、文学(B1)、カメラ、映画、歴史など(B2)が展開されます。私はフランスの地方の料理に興味があったので、食文化の授業を選択しました。各地方の特色や世界遺産に指定されているフランス料理の歴史を学べる一方、授業内でフランス特産のチーズを試食したりするなど、とても魅力的な授業でした。ナント大学に留学する方には、ぜひおすすめしたい授業です。全体の授業を通してですが、授業は1回2時間で行われます。すべて全員参加型の授業なので、生徒の積極性が求められます。私を含めてすべての日本人が最初に衝撃を受けるのは、スペイン語圏の方たちが授業の進行を幾度となく止め、質問をし続ける光景です。日本では、学生はただ一方的に授業を聞くだけで、授業中にわからないことがあっても、そして質問がないかと問われてもだれも答えず、授業終了後、すいませんと聞きに行くというスタイルが定番です。私も全くその通りの学生でした。海外ではその逆です。また、2時間という授業時間は思ったよりも短く、レベルが上がれば授業中に出てくる知らない単語は膨大な量になります。私は単語帳を留学中に終わらせるという目標をたて、授業で出てきた単語(通称、未知語)を未知語ノートに記入し、自宅でその意味を調べ、その単語を使って一文を作ることを日課にしていました。一度記入した単語がまたわからないということはしょっちゅうでした。そのときは、単語の右に正の字で忘れた回数を記入し、頻出回数の多い単語を中心に覚えるように心がけました。そしてその単語を、クラスの友達との会話に盛り込むように努力しました。また、ノートのメモはすべてフランス語で記入していました。それから、私が最も悩んだのは、クラスの友達や先生から「なぜフランスでフランス語を学んでいるの?」と聞かれることでした。学校で勉強をしている人の理由はさまざまです。フランスで自分の専門を学ぶために大学院進学を目指している者、結婚をきっかけにフランスに住む者、母国での仕事難からフランスにきた者。学生はみなさんが思っているほど多くはありません。多くの人は将来を一心に見つめて勉強していますが、私はこの質問を聞かれると、いつも口を閉じてしまいます。そんなこともあり、留学中は将来について真剣に考えることが多かったように思います。話を戻しますが、交換留学生は、通常授業に加えて、週に2回の夜間授業の受講が規定されています。この授業は通常授業と同レベルのクラスで学習をします。夜間授業の特色としては、I-FLE生ではない他の学校・大学や社会人が中心に受講を行っていることです。そのため少人数制であり、かつクラスによって学習内容が異なります。それは講師をナント大学の学生が行うからです。私のクラスでは基本的な文法事項に加えて、友達や家族などの特に親しい人の間で使うフランス語を学習しました。この授業で習った内容は、フランス人の友人との会話の幅を大きく広げてくれました。それから、授業のない時間は自宅学習を最低限行い、そのほかの時間は友人と中心街に出かけたりしました。長期休みにはナントに空港があることを大いに利用して、フランス国内や国外を旅行しました。また、週末は知人の紹介で、仕事の関係上ナントで3年間住むことになったご家族の8歳の息子さんにフランス語を教える仕事をしました。何の知識もない小学生に一から語学を教えるということで最初は非

常に大変でしたが、自分でテキストを作りながら本人のレベルに合わせて教えることができ、最終的には自己紹介だけでなく簡単な会話までできるようになりました。留学をしながらこのような経験ができたのは、とても貴重だと思っています。

留学中は勉学が優先されますが、それ以前に健康が大切です。薬はぜひ日本で十分に購入しておくことをおすすめします。フランスに薬局が多くあり、日本よりもお手頃な値段ですが、信頼できるという保証はありません。それが海外です。ときには薬が体に合わないものもあるでしょう。そして買ったからといって安心せず、それを常に持ち歩くようにしましょう。私は体が小さい頃から弱く、腹痛や下痢などは年中起きていました。少し話がそれますが、3月のバカンスでモロッコに旅行した時のことです。1週間の旅行をしましたが、2日目でのバスの13時間という長時間移動。極寒にも関わらず暖房はなく、ほぼ寝ずに移動したため、免疫力が低下したのでしょう。次の日の砂漠ツアーで、砂漠到着後、のどの痛みが出ました。いつもの扁桃炎かなと思っていたら、2日後の朝にはのどがほぼふさがり、食べる・飲む・息を吸う・寝るが正常にできず、その夜にさらに悪化したため、ホテルの人に頼んで夜中の2時に1時間以上かけて薬局を探してもらいました。無事抗生物質をもらい2日後ナントに帰ることができましたが、危険な状態だったと思います。わたしは腹痛用の薬は携行していたのですが、喉用の薬は部屋に置いてきてしまいました。これを読んでいるみなさんにはこのような事態には陥って欲しくありません。私は多くの人に迷惑をかけてしまいました。自分の身は自分でしっかり守ってください。それからあらゆる可能性を考えて、何をするにも入念に考えて行動してください。それから、無理な旅行はやめてください。海外での旅行は予想上に負担がかかります。多くの時間を観光に使いたいのはわかりますが、休養は大切です。しっかりと睡眠をとって次の日に備えることは、基本的なことですが忘れないでください。

長くなりましたが、私が留学を通して特に学んだことは、積極性と挑戦心です。語学を向上させるためにも、友達をつくるためにも、海外で生活するためにはこの2つの要素が必要になってくると思います。部屋に閉じこもっていてはほとんど意味がありません。フランス語がうまくなりたいと本気で思っているのならば、それを最大限に使ってください。最初は私もそれを避け、スーパーに行っても会話を極力避けるためにセルフレジを利用したり、すれ違う人と目を合わせないように下を見たりしていました。途中で、自分がなぜ留学にきているのかを考え、留学の目的をしっかり意識するようになりました。その結果、クラスで多くはなかった友人は大幅に増え、今ではくだらない会話ですらもできるようになりました。そもそも話すことを嫌がっていた自分がいつの間にか消えていました。それは積極性と壁を越えて新しい自分を築くという挑戦心からきたものです。最初に言葉や壁の文化のぶつかるのは誰もが通る道です。私は当初は留学にきていること、海外で勉強をしていることだけに満足をしていて、間違いに気づくことが遅れてしまいました。留学の目標は人それぞれです。私は留学の目標は当初、将来の夢を明確化することでしたが、先輩たちのように今留学を終えても一つに夢を絞ることは正直できていないように思います。しかし壁を乗り越えて多くの経験をしたことで、可能性を見出すことはできました。そして、留学は、私たちの固定観念を崩し、広い視野を与えてくれると私は思います。世界にはたくさんの人々がい

ます。そしてわたしたちの「当然」があてはまらない国もたくさんあります。多種多様な考えをもつ人々が1か所に集まり議論するということは、私たちの決まりきった考えを大きく変え、さまざまな見方を与えてくれます。これこそが、留学の一番の魅力ではないでしょうか。それはまた、自分自身や、母国である日本を考えるきっかけにもつながります。常日頃から社会問題に目を向け、さまざまな観点から考え、自分の意見を持つようにしていくべきだと思います。

留学を悩んでいる方に向けて。私が会ったすべての方が、大学を卒業したら海外で暮らすという経験はほぼゼロに近いと言います。留学先は深い理由を持つ必要はありません。私のように直感で決めている人は少なくないでしょう。国内にいては得られないものが海外にはあります。それは必ず何かしらの形で役に立ちます。悩んでいるのであれば、前に踏み出してみてください。お金の問題は正直二の次です。自分の気持ちと向き合って、後悔のない選択をしてください。パリでのテロ事件もあって、最初は厳格な父親はフランス留学に賛成してくれませんでした。いつもは挨拶だけで言葉もほとんどかわさないほどの仲でしたが、自分のありのままの気持ちを伝えたところ、留学に賛成してくれました。私のように父親とうまくいってない方。一度しっかりとした場を設けて、自分の気持ちを伝えてみてください。きっと理解してくれると思います。これも挑戦心です。

最後になりますが、私の留学生活が実りのあるものとなったのは、留学交流推進課、学務係のみなさま、駒形先生をはじめとするフランス文化の先生方、ナント大学の中尾先生、なんとなくナントのみなさま、そして何より、留学を一番に応援してくれた両親のおかげです。この御恩を忘れず、留学経験を活かして今後の学生生活を過ごしていきたいと思います。そして願わくば、観光企業に就職して、恩返しができればなと思います。本当にありがとうございました。



Nantes (ナント)



Saint-Malo (サン・マロ)



Paris (パリ)